

西神ニュータウン研究会 会報

第205号 2020年9月

■第205回例会記録

- ・日時 2020年8月29日(土) 14:00~16:00
- ・場所 ユニティ・セミナー室1+2 ・参加者27名
- ・テーマ ニュータウンにおける地域共同管理空間のマネジメント
～高塚山の保全と活用事例をもとに～
- ・発表者 高田知紀氏(兵庫県立大学 自然・環境科学研究所 准教授)
守山大河氏(神戸市立工業高等専門学校 都市工学科 2019年度卒)
内藤富夫氏(神戸学園都市高塚山を愛する会 会長)



■地域共同管理空間(コモンズ)が地域を豊かにする (高田)

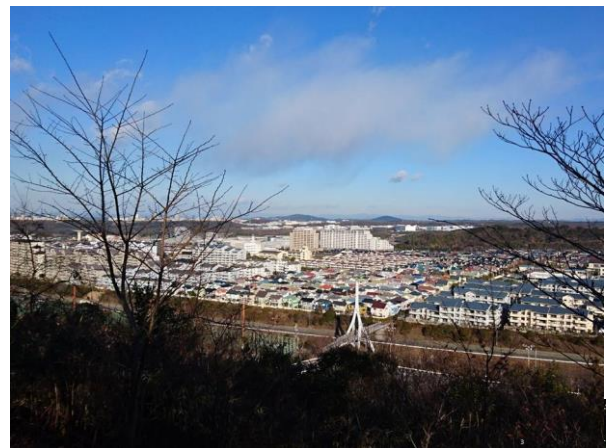
- ・「コモンズ」とは地域が共同で管理する空間や資源のこと。
- ・近代では、「誰か」の所有物になった。すなわち、「私有」か「公有」になった。
- ・しかし、「公」と「私」の間には、「共」が広い範囲である。
- ・「公」だけど、みんなで使い、「私」だけど、みんなで使う。このぼんやりとした「共」が地域を豊かにする。
- ・現代社会で、「コモンズ」をどう実現するかが大事。

地域共同管理空間(コモンズ)とは

- ・「コモンズ」とは地域が共同で管理する空間や資源のこと
- ・日本では入会の概念に近い
- ・集落や地域が共同で管理し、そこに所属する人びとが一定のルールのもとに自由に使ってきた入会は、近代化の過程で「誰か」の所有物となった
- ・現在の日本の法制度においては、ある土地や資源を多様な人びとが共同で所有することは難しい
- ・個人、法人、行政などによって管理
- ・すなわち「私有」か「公有」かのどちらか
- ・コモンズは、この私有と公有の間の多様な所有・管理のあり方
- ・新しいコモンズをどのように実現していくか?

■高塚山から地域の歴史が読みとける。(高田)

- ・高塚山の眺望素晴らしい。このようなところを古代人が好み、それゆえ、古墳群跡がある。
- ・高塚龍神の伝えもある。高塚山には、水の道があり、山崩れもあった。それを治める龍神伝説がある。
- ・ニュータウンには何もないというが、これは違う。開発前の地形から物語を読み解くことができる。これがおもしろく愛着が生まれる。



■「宝の持ちぐされ」と思い仲間を集める。

→12年前に、「愛する会」が始まる (内藤)

- ・荒れ放題だったが、里道整備から始めた。神社付近もうっそうとしてたが、展望台になった。神社の所有者、山の所有者である神戸市に理解をしてもらった。
- ・道、場所にとりあえず、名前を付けた。
- ・名前を付けるのは、空間に意味を持たせる(文節)ことで、初めての人もわかりやすくなり、愛着も生まれる。(高田)



■高塚山には、キツネがすめる生態系がある。(高田)

- ・高塚山には、野鳥 チョウ、カブトムシ、トンボ、カマキリ、ヘビ、カエル、トカゲ 野花、キノコそれにキツネなどあらゆる生き物がいる。



- ・みなさんで作ったビオトープには、絶滅危惧Ⅱ類のセトウチサンショウウオも発見されている。
- ・このように、人が住むところの身近なところに、**キツネもすめる生態系**があり、どう保全するかが大事だ。特に、コロナ禍の中で、**家から近くで、自由に遊べる自然の価値が高まった。**

■アーバンキャンパー山に入れば子どもは変わる (守山)

- ・2年前のワークショップで、お母さんから提案があり、社会実験として実施。神戸高専学生グループ、小東山子ども会、西建設事務所(神戸市)、愛する会が協力して実施。特に、西建設事務所からは、都市公園内でのキャンプ、特に火を使うこと等に、特別の許可を得ることができた。
- ・雨のため、デイキャンプになったが、木登りや、火を使って、カレーをつくるなど、大いに楽しんだ。
- ・**子どもは、山に入ったら変わる。**ほっておくと、疲れるまで、無茶苦茶、遊び、自然を体験してターザンごっこなど**自分で遊び方を見つけていた。**
- ・西建設事務所の担当者が「素晴らしい活動」と理解して「教育」として、**都市公園法の特別の扱い**を考えてくれた。
- ・けがなどの責任を怖がって、**子どもが遊べる環境を大人が閉ざしている。子供の可能性を奪っている。**(高田)
- ・規制が、がんじがらめ。その中で、どう緩和できるか、話しながら創っていく。このプロセスも大事。(高田)

■コモンズ再生に向けて (高田)

- ・高塚山をみなさんが守り育てている、愛着をもっている。公共空間の「所有権」はないが、「**所有感**」を持つことになる。
- ・この場合、必要な管理がいる。「義務」ではないが、「**責任感**」が必要になる。
- ・コモンズの再生には、小さな「できること」を積み重ねることが重要だが、それには、「やりたいこと」(楽しく盛り上がる)と「やるべきこと」(そのために何をやるか)がある。

<意見交換>

- ・西建設事務所(神戸市)の担当の判断は、住民の要望をよく理解し、規則を柔軟に適用し素晴らしい。全国へ発信を。
- ・地域活動を広げるには? ←不特定多数が参加するしくみ。いろんな団体で協力して実施。やりたいという人をひとりでもいいので、がちり掴む(いわゆるインフルエンサー)など。
- ・ニュータウンの公園で、キャンプができないか ←いろんな団体が協力すれば、いいのでは。(文責 橋本)



セトウチサンショウウオ



アーバンキャンプの価値

- ①**子どもの野外活動や自然体験について**
 - ・保護者自身の幼少期の体験を同じように子どもにもさせてやりたい
 - ・自宅の近場で野外活動を行える点が良い
- ②**子どもの自覚性について**
 - ・子供には習い事をするよりも自分達で自然の中で遊んでほしい
 - ・多くの子供達が、保護者も含め高塚山で遊べることを知らない
- ③**世代間交流について**
 - ・アーバンキャンプにはスタッフとして神戸高専の学生やYMCAのスタッフが参加
 - ・人間関係の勉強になることを期待
- ④**コミュニティの形成について**
 - ・アーバンキャンプに携わった各機関の良好な関係性
 - ・高塚山を愛する会の後継者

コモンズ再生に向けて

- 「所有権」から「所有感」へ**
- ・「おらが山」→自分たちが守り育てているという感覚
 - ・公共空間を所有する権利はないが、所有感をもって使うことができる
 - ・小さな実践を積み重ねながら、小さな達成感を共有していく
- 「義務」から「責任感」へ**
- ・所有権には義務が伴う
 - ・権利をもたずに使う場合においては責任感が必要
 - ・「できること」のなかで「やりたいこと」と「やるべきこと」を実践